

## 学位論文内容の要旨

学位申請者	田川 麻央 【比較社会文化学専攻 平成20年度生】	要 旨
論文題目	日本語学習者の読解における 要点関係図作成の効果に関する研究	<p>本研究の目的は、第二言語（以下 L2 と記す）として日本語を学習する中級及び上級中国語母語話者学習者の読解において、文章の要点の関係を示した要点関係図を作成するストラテジーが首尾一貫した表象（coherent representation）の構築に及ぼす効果について検証することである。</p> <p>読解の目標は文章の要点とそれ以外の詳細情報を区別し、要点と要点、要点と詳細情報を関係づけた首尾一貫した表象を構築することである。先行研究において、L2 学習者は単語の認知や一文の文法解析などの言語処理に多くの認知資源を費やすため、情報間を関係づけていくなどの文章の処理と保持に回す認知資源が制約されることが指摘されている。また、L2 習熟度の低い中級学習者は、母語話者と比べて要点及び詳細情報を関係づけて把握することが難しく、上級学習者でも詳細情報を把握するのが困難であることも報告されている。このような L2 学習者には要点探索と情報間の関係探索（以下関係探索と記す）を促す必要があると考え、要点関係図作成が設定された。本研究の結果以下のことが明らかになった。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中級学習者では要点関係図作成の要点探索と関係探索によって促される効果は異なるが、総合的に要点関係図作成によって首尾一貫した表象の構築が促進される。</li> <li>2. 上級学習者においても要点関係図作成によって首尾一貫した表象の構築が促進される可能性、及び要点関係図作成によって中級学習者の表象は上級学習者の表象に近づく可能性がある。</li> <li>3. 読解過程での要点関係図作成の要点探索と関係探索の関わり方は中級学習者と上級学習者では異なり、上級学習者は中級学習者と比べて要点探索と関係探索が相互に関わりあっている。</li> <li>4. 要点を論理的に関係づけることで首尾一貫した表象の構築が高まるが、単に要点関係図作成を行うよう指示するだけではその効果は限定的なものになり、いかに要点探索を促すかに焦点を当てて要点関係図作成を指導するかが重要である。</li> </ol> <p>以上のように本研究は、中級学習者と上級学習者の読解過程における要点関係図作成での要点探索と関係探索の関わり及び要点関係図作成の首尾一貫した表象の構築への有効性とその限界を明らかにした点で高く評価される。</p>
審査委員	(主査) 教授 佐々木 泰子	
	教授 石 口 彰	
	教授 宮 尾 正 樹	
	助教 西 川 朋 美	
	助教 加 納 なおみ	